

大槌町における  
「人口問題対策アクションプラン」と  
「拡大コミュニティ」の取り組みについて

大槌町役場 総合政策課

# 東日本大震災の影響で、人口減少問題が課題

- 人的被害率8.4%という甚大な被害
- 人口減少はおおよそ10~15年前倒し

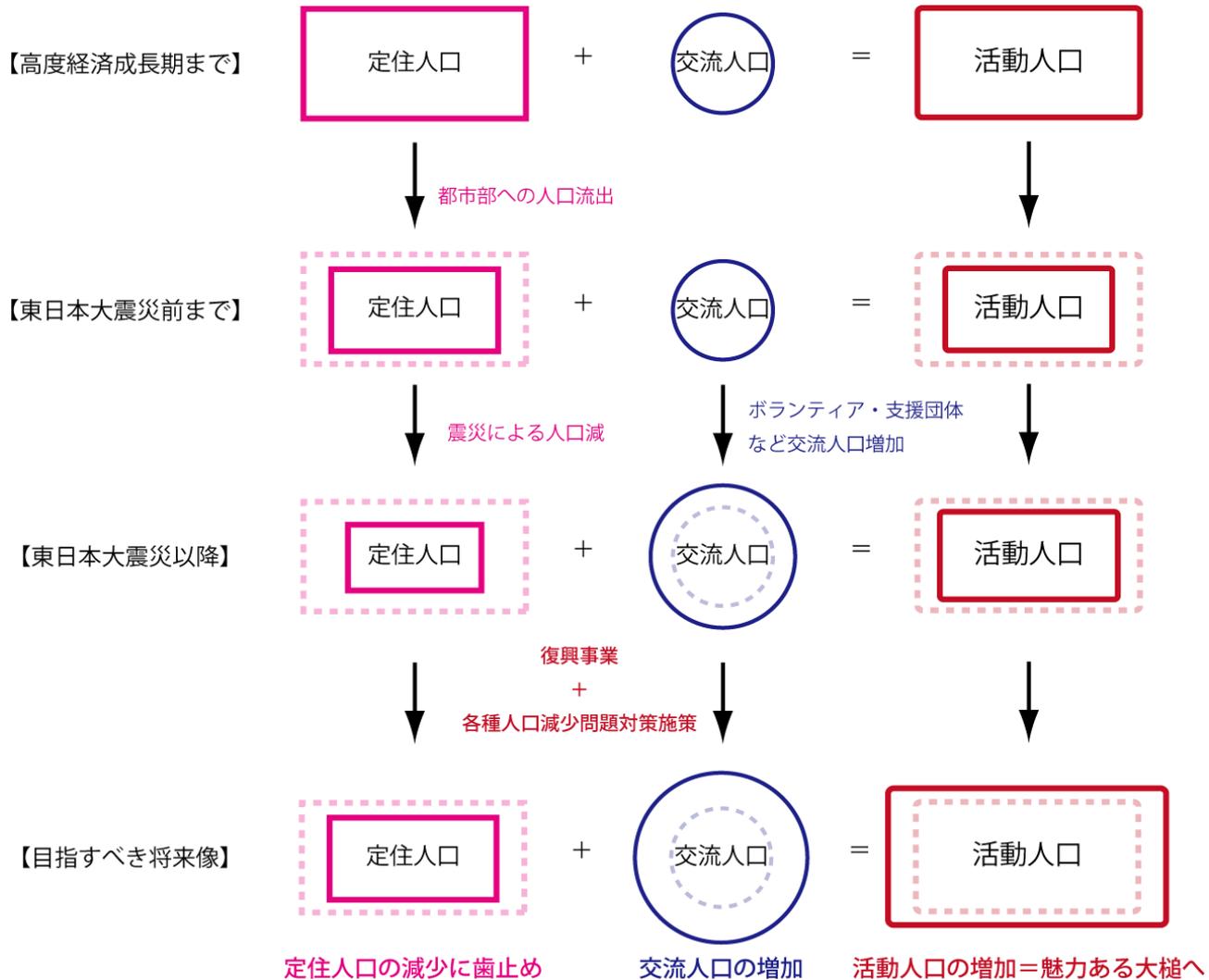
県	市町村	平成 22 年 国勢調査人口 (A)	人的被害 (B)	人的被害率 (B/A*100) (%)
宮城県	女川町	10,051	873	8.686
岩手県	大槌町	15,276	1,280	8.379
岩手県	陸前高田市	23,300	1,808	7.760
宮城県	南三陸町	17,429	835	4.791
岩手県	山田町	18,617	834	4.480
宮城県	山元町	16,704	717	4.292
岩手県	釜石市	39,574	1,142	2.886

	2005 年	2010 年	2014 年 11 月	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年
2005 年推計値	-	15,432	-	14,339	13,188	12,028	10,907
実数値	16,516	15,276	12,571	-	-	-	-

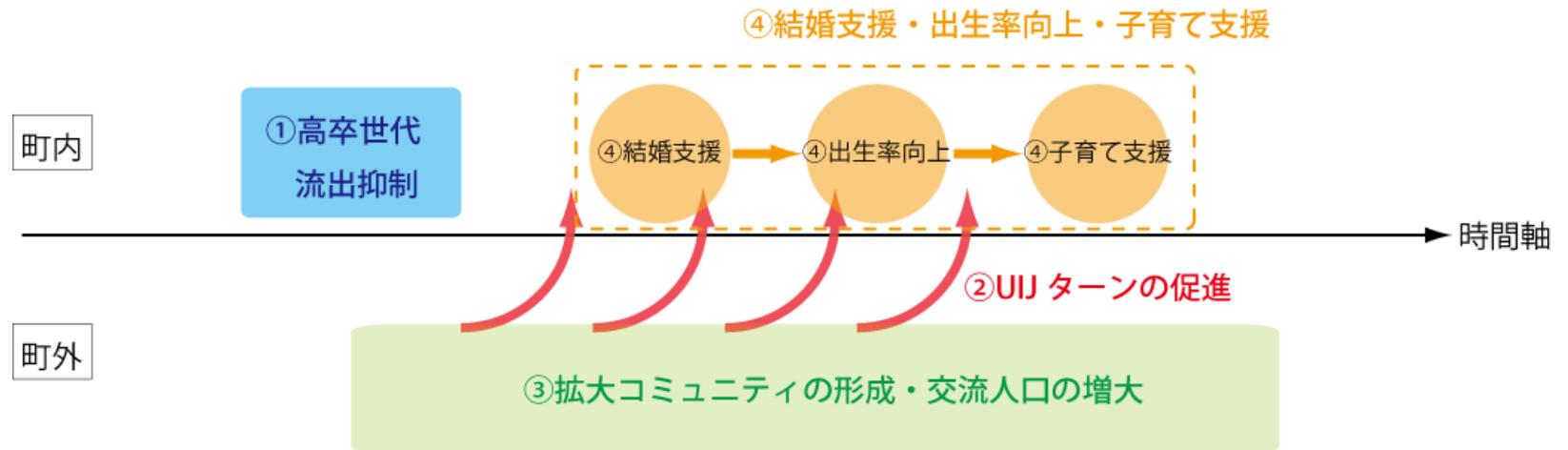
# 復興事業終了後を見据えた人口問題対策

- 被災市町村では初となる、人口問題対策アクションプランを策定
- 「定住人口+交流人口=活動人口」と定義し、いかにして活動人口を増やしていくかを重視
- ①高卒世代の流出抑制、②UIターン促進、③拡大コミュニティ形成、④結婚・出産・子育て支援
  - 以上4項目を重点的に掲げる
  - 「拡大コミュニティ」という考え方を導入した点がオリジナル

# 復興事業終了後を見据えた人口問題対策



# 復興事業終了後を見据えた人口問題対策



# 「拡大コミュニティ」という考え方

震災によってできた縁

(支援者・ボランティア・工事関係者・  
観光客etc) を大切にし、

「大槌のために何かしたい」

「大槌がどうなっているか知りたい」

という方々と地元とを巻き込んだコミュニティを形成していこうという考え方

⇒既存の交流人口の概念を更に深めた  
形式

⇒大槌との関わり合いに応じてアプローチを変えていく



# 「拡大コミュニティ」という考え方

拡大コミュニティの分類例			
番号	タイプ	概要	左記の人とのつながり(連絡先などを知っている部署など)
A	町民		町民課(住民基本台帳など)
B-1	出身者	震災に伴い引越した人	町民課 被災者支援室 (直接聞き込み)
B-2		進学に伴い引越した人 結婚に伴い引越した人	町民課 ふるさと大槌会 各学校同窓会 (直接聞き込み)
C	勤務経験者	震災以前に勤務していた人 応援職員 ボランティア NPO団体 協力大学の関係者 復興事業で関わった人	応援職員の会 社会福祉協議会(ボランティア関係) NPO 大学 復興事業で関わっている会社・事業所
D	来訪経験者	観光客 震災関連視察・ツアー・学習 復興視察	宿泊施設 飲食店(NPO関連施設なども含める) おみやげ店 ツアー関連旅行会社 NPO
E	大槌関心層	通販でおみやげを買っている人 ホームページなどで関心を示す人 募金などに協力している人 ふるさと納税をしている人 東京などでのイベントで関心を示す人 フェイスブックで関心を示す人	財政課 商工観光課 復興関連の方 HP関連の運営団体・個人
F	大槌無関心層		

## 魅力ある地域の創出に向けて

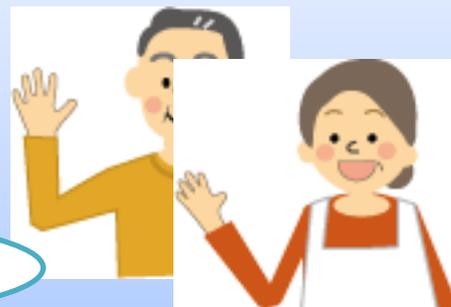
- 拡大コミュニティ形成には、情報発信・交流とともに、**魅力ある地域や地域物産を地元の方々と一緒につくりあげる必要がある。**
- **企業や大学との支援は特に継続性が見込める**（定期的に拡大コミュニティが増えていく）**ことから重要視していきたい**

地域（集落）

町内会・自治会

お茶っこの会

公民館活動



かわら版の送付  
(情報提供)

お祭り・イベント  
補助



集落出身者



ボランティア



観光客  
(リピーター)



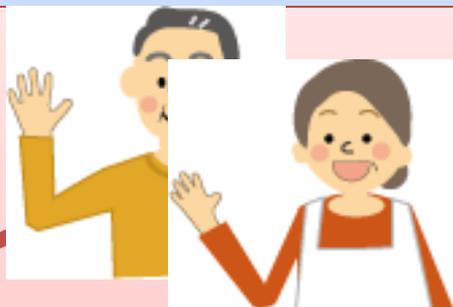
大学

# まとめ

地域住民

大槌町

人口減少をどうする？復興事業終了後のまちの姿は？  
せっきくの支援者とのつながりを大事にしたい



大槌町役場

地域づくり等  
での交流

拡大コミュニティ

ボランティアに行った大槌はどうなっているんだろ？報道でもあまりみなくなったな？何かできることはないかな？



イベント参加者



拡大コミュニティ（大槌関心層）